小学校への就学

就学先は、小学校一般学級、弱視学級、視覚特別支援学校などがあります。それぞれの特徴を把握し、選びます。

文字が大きい拡大教科書については、前年の秋ごろまでに文字の大きさや挿絵などが、見やすいものを調べます。各出版社が30ポイントくらいまでの教科書を2，3種類作っています。それでも拡大が不十分な場合には、拡大写本ボランティアにより、さらに文字が大きい特別なものが作成されます。サンプルや実物を見て選ぶとよいでしょう。

その他、小学校で配慮してほしいこと（お願いしていくこと）、おうちでしておいた方が良いことなど、本校で相談に応じます。

子どもによって見やすい文字のフォントがあります。一般的には、ゴシック体が読みやすいと感じる子が多いです。ゴシック体を太字にしたものが読みやすい子もいます。
（このリーフレットの文字は、
UDPゴシックです。）

弱視児には、色のコントラストを配慮すると見やすくなります。（白黒反転）

白いお茶碗に白いご飯を入れるとよく見えません。でも、黒いお茶碗なら、残りのご飯もよく見えてきれいに食べられます。（黄色黒反転）

幼稚園・保育園
療育に通う

視覚に障害のある幼児への支援

埼玉県立特別支援学校
塙保己一学園
（埼玉県立盲学校）

幼稚部

視覚障害とは？

視覚障害には、盲と弱視があります。弱視では、「全体的にぼやけている」「視野が欠けている」「真ん中が見えづらい」など見え方が子どもによって違います。ほとんどの弱視児は、はっきり見えた経験がなく、自分の見え方をうまく説明できません。視力や視野の検査には集中力が必要なため、正確に測定することが難しい場合もあります。

視覚障害児の発達には、保有する感覚を活用することが大切です。過敏があったり、怖かったりするために触ることが苦手な幼児もいます。そのような場合には、無理強いをせず、少しずつ慣れていけるようにしましょう。

視覚障害児の学習には時間がかかります。活動には十分な時間を与えます。弱視児には少しでも見やすい場所で学習ができるように配慮してください。

大きい声で話しかける必要はありません。普通の声で分かりやすく話してあげてください。

実物や模型を触ること、見えていない部分を補う説明を聞くことは、視覚障害児の学習の支援になります。

友達や先生の顔がはっきり見えないためにコミュニケーションを取ることが難しい場合があります。声を覚えるまでは、名前を言ってください。席を外すときには声をかけてあげると安心します。

本校は、埼玉県で唯一の視覚特別支援学校です。地域で学ぶ子どもたちも、広く支援しております。子どもたちの生き生きとした成長のために、共に考えていけたらと思います。

はじめに

このリーフレットは、幼稚園、保育園、療育等に通う視覚障害幼児を支援するために作成しました。

全盲の幼児には、触って外界を知る力、弱視の幼児には、見やすい環境の中で学ぶ力が大切です。

個に応じた支援や合理的配慮により、子どもたちは生き生きと活動ができるようになります。幼児教育に関わる皆様と連携を取りながら子どもたちの学びについて共に考えていけたらと思います。

ご質問等ございましたら、ご連絡をください。

また、教育相談として幼稚園、保育園、療育機関等にお伺いすることもできます。お気軽にお問合せください。

相談は無料です。

埼玉県立特別支援学校
塙保己一学園
（埼玉県立盲学校）

〒350－1173
埼玉県川越市笠幡85－1
電話　049-231-2121
FAX　049-239-1015

ウェブサイト
https://www.mo-sb.spec.ed.jp/
メール
tamago@spec.ed.jp

安全への配慮

視覚に障害のある子は、周囲の物や段差などに気づきにくいので配慮します。

まず、床には物を置かないようにします。また、突出しているもの(特に頭の高さにあるもの)には、クッション材をつけるようにします。目に衝撃が加わると、さらに視力が低下する怖れがあるので、注意が必要です。

本校幼稚部の例

★目立たない白い洗面台には、黒いビニールテープで縞模様をつけました。

★廊下と教室との段差の部分には、黄色と黒の縞模様のテープをつけました。

★角の部分にクッション材をつけました。

階段の段差が見えづらい場合にも、段差の部分に色のコントラストをつけると安全に歩行できます。

自立への工夫

自分のマーク

机、椅子、ロッカーなどにマークをつけると自分のものであることがわかります。立体的なマーク、わかりやすい色のマークなど、その子にあったものを見つけてください。

ロッカーは、一番端など、わかりやすい場所がよいでしょう。

衣服の着脱

シャツやズボンを着るときには、手で持つところにボタンをつけると自分で着られるようになります。

できるようになったら、2つのボタンを1つにしたり、模様やポケット、タグなどを目印にしていきます。

裏返しになったときの直し方、たたみ方なども練習します。裏返しにならない脱ぎ方も覚えていきます。

見やすい時計

音声時計

見やすくするための工夫

これらの視覚補助具に小さいうちから慣れておくことが大切です。

単眼鏡

教室の黒板や駅の時刻表等遠くにあるものを見るときに使います。

就学後は、単眼鏡を片手で操作し、ノートに写します。

レンズ

近くにある小さいものを拡大して見たいときに使います。

手持ちルーペ、卓上ルーペなどがあり、携帯に便利です。手持ちルーペは、ライトのつくものもあります。

書見台

小さい文字でも目に近づければ見える子がいます。でも、机の上に置かれたものを見ると、姿勢が悪くなります。書見台を使うと、見やすく疲れにくくなるので、読み書きがしやすくなります。

拡大読書器

文字や絵を拡大できます。文字を白黒反転、黄色黒反転することもできます。文字を書いたり、塗り絵をしたりするときなどにも使えます。明るさのコントラストの調節もできます。

タブレット端末

昆虫など、小さいものや遠くにあるものを写真やビデオに撮り、拡大して見せることができます。また、ダンスが覚えられない場合に録画して繰り返し見せることもできます。壁面に掲示してあるものをタブレットで撮影すれば、友達の作品も見せてあげられます。

遮光眼鏡

一般的には明るい方が見やすいですが、まぶしさを感じる子もいます。屋内では直射日光が入らないようにカーテンをするとよいでしょう。

また、屋外の活動には、つばの広い帽子や遮光眼鏡がまぶしさをやわらげます。

周囲にいる視覚に障害のないお友達に視覚障害児の見えづらさや必要な配慮を分かりやすく説明していおくこともことも大切です。